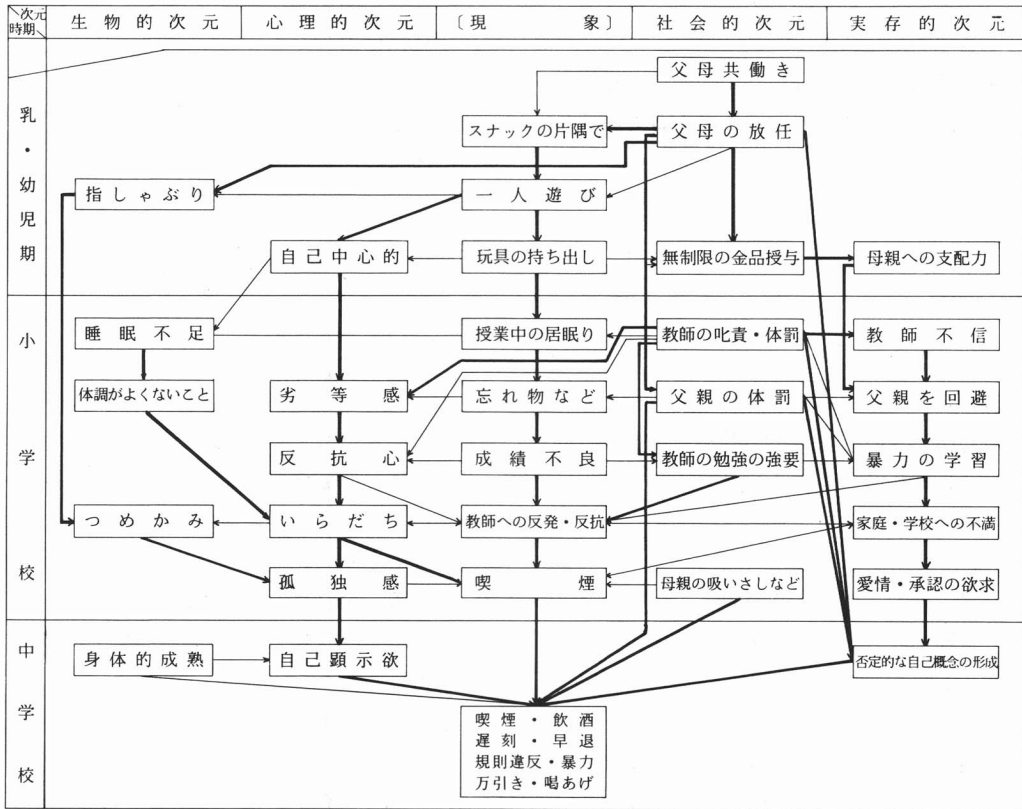


多次元診断マトリックス



に適応できず抱いた不適応感を解消するための親や教師への反抗である。その経緯について、多次元診断マトリックスに示す。

6. 指導仮説

当面は問題行動の改善を目指しながら、生徒が「幸福な生活」を確立できるよう指導援助する。

具体的には

- (1) 健康な体をつくる
- (2) 好ましい親子関係をつくる
- (3) 基礎学力を身につけさせることなどを目標とする。

特に、教師に対する不信感を強く持つ生徒であるので、問題行動の始めである喫煙を断つ指導の過程で、問題の根本にある愛情と承認の欲求に応じていくことによって信頼関係を修復する。教師と生徒との信頼関係が再構築されれば、着実に指

導の目標が達成されていくと考える。

また、そのために

- (1) 教師個々の役割を定めて指導する
- (2) 日常の教育活動の中で、いかなる生徒も集団から排除しない指導をする
- (3) 生徒一人一人の指導計画をたて、指導の過程を評価しながら指導することなどを基本的な指導方針とした。

さらに、教師と生徒、生徒相互の好ましい人間関係づくりのために、教師は、生徒と出会うたびに、「さりげない笑顔」あるいは「肯定的なうなずき」を与えること、必要に応じ積極的に他の関係機関との連携を図ることなどを大切な留意事項とした。

7. 指導援助の経過

● 7・6